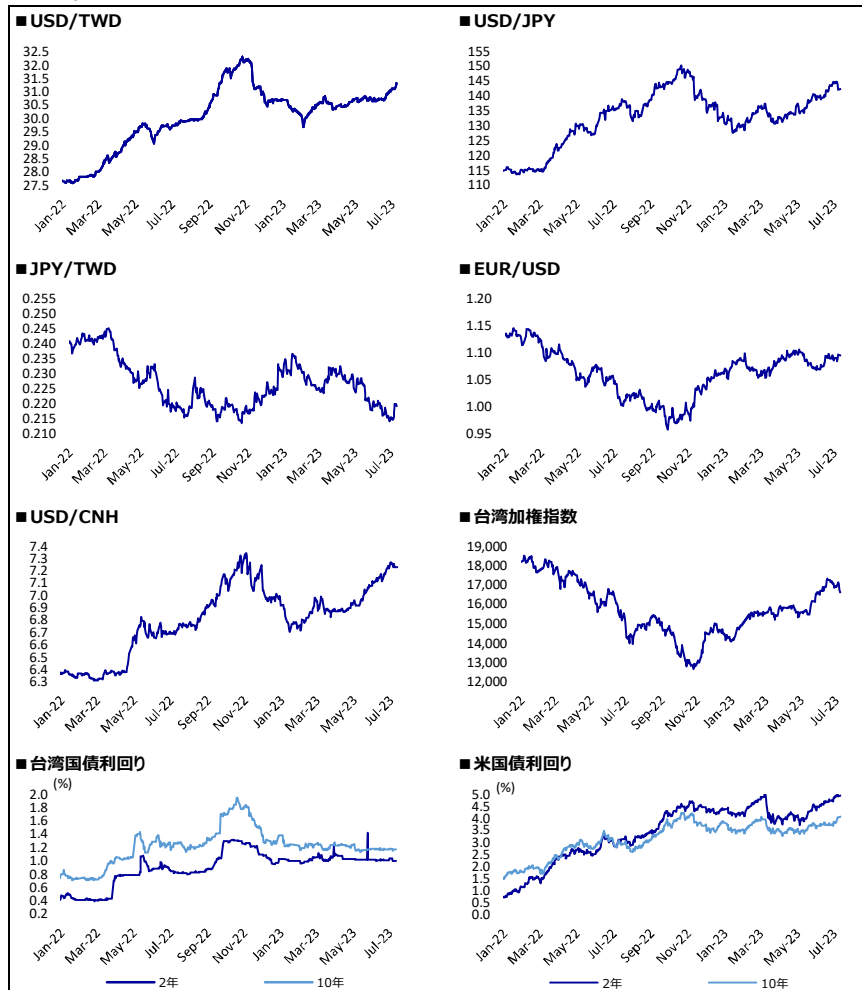


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは上昇。週初7/3は31.135でオープン後、台湾株の上昇につられて一時31.085まで下落。しかし、前週までに外国人投資家が台湾株を売り越していたため、すぐに戻され31.14付近で推移。7/4は台湾株は堅調に推移すると一時31.100を割り込んだが、外国人投資家は台湾株を売り越し、31.14付近まで上昇。その後、輸出企業のドル売りや人民元が反発すると31.11付近まで戻した。7/5は軟調に推移する台湾株につられて31.15付近まで上昇するも、輸出企業のドル売りで上値は重かった。7/6は台湾株が急落すると外国人投資家の台湾ドル売りが優勢となり、31.26台まで上昇。ただし、大口のフローもあり、引けにかけては31.22台に戻した。7/7も外国人投資家の台湾ドル売りや米金利の上昇を受けた海外への投資送金の拡大を背景に一時31.342まで上昇。最終的に先週比0.6%ドル高台湾ドル安の31.330で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は695.4億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は下落。週初7/3は144.32でオープン後、良好な日銀短観（4～6月期）の結果を受けた日本株の上昇を背景に一時144.91に続伸も、米6月ISM製造業景気指数の弱い内容を受けて米金利が低下、ドル円も144円ちように反落。7/4は米国休日で動意に乏しく、144円台半ばのレンジで推移。7/5は五・十日の実需のフローから144円台後半に上昇するも、米5月製造業受注が予想より悪化し、144円台前半に下落。その後は米金利反転につられ144円台後半に戻した。7/6はアジア株が軒並み下落する展開にリスク回避の動きが強まり、円買いが優勢となると143円台半ばまで下落。しかし、米6月ADP雇用統計が市場予想を上回ったことや、米6月ISM非製造業景気指数も良好で米経済の堅調さが確認されると144円台半ばまで戻した。7/7は米雇用統計の発表を前にポジション調整か、143円台前半まで急落。その後発表された米6月雇用統計の内容は平均賃金が予想を上回るも非農業部門雇用者数変化が予想を下回ったことから、米労働市場の減速が懸念され、ドル売りで反応し、一時142.07まで下落。最終的に先週比1.4%ドル安円高の144.22で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：31.200-31.450
今週は底堅く推移すると見込む。先週発表された米雇用統計の結果を受けて景気減速への警戒感が高まっている。今週は米CPIの発表も控えているが、内容次第ではインフレが収まらないのに景気が悪化するという事態が想定されると、さらなる台湾ドル安となるであろう。

■ USD/JPY 予想レンジ：140.00-145.00
今週は上値が重いと見込む。米6月雇用統計を受けて、景気減速への警戒感が高まっているが、今週は米CPIの発表を控えている。内容次第ではあるが、予想を下回った場合は利上げ期待が後退し、さらにドルロングのポジション解消に動く可能性があるため、注意したい。

今週の予定

7/10 (MON)	
7/11 (TUE)	
7/12 (WED)	米6月CPI、米バージュブック
7/13 (THU)	米6月PPI
7/14 (FRI)	米7月ミシガン大消費者信頼感指数

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。